

【11月補正予算案知事記者会見】11月20日（水）

SAGA2024 国スポ・全障スポでは、皆さん方の協力で「する」「観る」「支える」「育てる」「稼ぐ」各方面で参画いただき、新しく温かい大会が開催できた。

また、報道の皆さん方は多くの競技会場で、感動シーンや感動の声を取材していただいた。すべての皆さまに感謝申し上げます。

本日、鹿児島島の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生した。今シーズンは、10月17日の北海道が初めて。昨年より1か月早い。過去最多は、令和4年度の26道県84事例。同様のペースで発生している。

佐賀県では、10月21日から養鶏農家に消石灰を緊急配布し、ウイルスの侵入防止対策を徹底中。本日は、家畜伝染病予防法に基づき消毒命令を発出した。今後も先手で対応し防いでいく。

● 令和6年度11月補正予算案

11月補正は92億円の増額、補正後予算は5,425億円。

92億円の内訳は、通常補正分が8億円、人件費の補正分が人事委員会勧告を踏まえて38億円。県職員、教職員、警察職員の平均給与を2.94%引き上げ、期末・勤勉手当を0.1月上げるための対応。

税関連支出分が46億円。県税収入は、法人事業税や地方消費税などで77億円の増。地方消費税は都道府県間で清算するため、他県に支出する額が46億円。差額が実収となる。さらに国の経済対策への対応として、補正等があれば対応する。

通常補正8億円の内容を説明する。

SAGA2024を跳躍点に！SSP構想をさらに推進

SAGA2024は通過点にとらえ、今後SSP構想を推進する。指導者の確保、チャレンジドへの支援、パラスポーツ選手を支える人たちを増やすことが、通常の対策にも波及するはず。2.5億円を運営基金に積み、今大会の節減経費2.5億円と合わせ5億円。

アスリートのセカンドキャリアへの支援として、キャリアセミナーの開催や個別メンタリングに600万円を計上。国スポ・全障スポを大会の成功だけで終わらせず、今後に生かした形でスポーツによるまちづくりに注力する。

食を届け、こどもを笑顔に

佐賀県の強みは、CSOが発達していること。令和4年10月、県とCSOが「佐賀県食でつながるネットワーク協議会」を設立。これは、佐賀女子短大に冷蔵庫を設置し、

企業から寄付された食品を全県下に配る事業を始めた。企業からの寄付食品は、当初の40倍を超える量になり、支援の輪が広がった。こども食堂の数、配送量ともに増加したため県全域への配送がむしろ課題。

そこで、子育て支援CSOが取り組む食品保管の拠点を4か所つくる整備に支援する。冷蔵庫を設置し、佐賀女子短大にあるセントラル倉庫からの食品を受け入れるエリア拠点をつくる。

美と笑顔を届けるコスメギフトプロジェクト

「コスメティック構想」には約10年取り組んでいる。コスメの産出量は、日本全体で0.9倍だが、佐賀県は2倍以上の増加。佐賀県は、自然由来原料の供給地でもあり、フランスのコスメバレーからの商品を県内で作り、アジア諸国に輸出する構想があり増加。

この事業は、商品の入替えなどの在庫を、経済的な理由で購入できない方々に届ける取組。こども食堂の4つの拠点も活用したい。

気付きと共感 フェムケアをスタンダードに

女性の活躍を応援している。今回は、女性特有の健康課題でもある月経と更年期障害に、男性も共有認識を持ってないかと着目した。話題にしづらく個人差もあるため周囲に理解されず、日常生活への支障や離職・転職につながることもある。男女問わず、気づき、知り、受け入れることで、悩んでいる女性に寄り添うきっかけになればと「フェムケアSAGA」を開催する。

内容は、パネルディスカッション、フェムテック、フェムケアサービスの紹介、生理痛体験など。これらを通じて共通認識を作りたい。「フェムテック」は、フィメールとテクノロジーを合わせた言葉で、女性特有の健康課題をテクノロジーの力で解決する製品やサービス。「フェムケア」は、女性特有の健康課題をケアする製品やサービスのこと。女性の健康課題への理解を深め、男女が共に自分らしく活躍できる社会を目指す端著にしたい。

県外からのバス運転士確保を支援

県内のバス運転士の4分の3が60歳以上、半分は70歳以上。5年前に比べ、人数が約10%減少。そのため、路線の再編や減便・廃止が発生。運転士の確保が急務。

県外からの人材獲得のため、採用キャンペーンを企画し、採用活動を支援する。さらに、事業者が県外からの採用者に支援金を支給する場合、県がその2分の1を補助する。

バス路線の維持は、健康づくりをはじめ、脱炭素社会の推進など、様々な分野に効果がある。Uターン転職希望者に、バスの運転士として帰ってもらう取組でもある。